friendship force
AICHI

№.１０９

Newsletter

ＵＳＡ、デトロイト，ウェスタンミシガン交換の旅（６・１～６・１５　１７名）

ED から参加者の皆様へのお礼と感想　　ED　稲葉　千賀子

参加者の皆様には、全体的にはよくご協力いただき、心から感謝いたします。言葉のハンディにもかかわらず、全員ホストと心を通じさせようと努力されているように見受けられ、とてもうれしく思いました。

ホストの方たちは、両クラブともにいつも、どこに行く場合でも一緒に行動してくださり、私たちはとても心強い思いでした。それだけに、アンバサダーとホストがかなり親しくなりやすい状態であったと思います。　毎日毎日長距離ドライブで、ホストの方々はさぞお疲れであろうと思うと同時に、我々受け入りの際、出来るだけホストが面倒見ることが必要なのではなかろうかと、考えてしまいます。2 か所の交換で感じましたが、デトロイトでとても和気あいあいと楽しく過ごしたにも拘わらず、後のクラブの印象の方が強いというのは、我々の年齢のせいばかりではないような気がします。その点を考えると、受け入れの際後半を引き受ける方が良いのかなと思いました。
海外ということで、事前に下見というわけにもいかなかったのですが、汽車に乗る必要があったのか、シカゴはプログラムに組み込んでもらった方が良かったのか、ED のリサーチ不足を反省しています。

みんなのコラム

あのアメリカに、再びＦＦ愛知の有志１７名が渡航しました。昨年の美しいモンタナの大自然に続き、今年の海外交流はデトロイト、ウェスタンミシガンです。寄せられた紀行文から、広大な五大湖の町が世界を牽引し、豊かさと富を築いてきた原点が見えてきます。人の優しさに接し、言葉の壁を乗り越えた感動の体験と楽しい思い出に溢れています。そして国内交流の復活。双方の役員の熱い気持ちが新潟訪問として結実。普通のツアーでは見ることのできない歴史や、芸術に触れ、新潟の方々のおもてなしの心の神髄を識ることとなりました。メキシコ受け入れや来年の愛知交流が、私たちのチームワークの結集として、最良のおもてなしの形となって表れる事を期待したいと思います。

重森　整三

デトロイト・ウェストミンガン渡航記　　加藤　紀子

やはり、アメリカは大きい、とにかく大きい、どしょっぱなから実感。両ホストともその大きさもものともせずに、毎日一時間二時間のドライブをしてみんなのミーティング場所まで連れて行ってくれた。（私達ガソリン代は払っていない）たとえそれが 80 歳以上の人であっても運転をすることは何とも思ってない様子。車がなければ生活できないためなのだろうと思う。生活様式の違い、各々どんな家庭であっても日本のようにトイレが１つ、お風呂が１つなんてことはありえないんではないかと思う。どの家庭も「どうぞご自由に家をご覧ください」と見せてくれる。我々日本なら使っていない部屋は隠す、寝室は絶対に見せない。この年になって一番うらやましかったのは、自分のしたいことをするために自分たちの住んでいた家を売り、やりたいことのできる家に替わること。日本では考えられないことだと思う。もう一つはシェアハウス、26 人がその家に住んでいるという、次々に若者が手伝いに出てきて、会話にすっと加わってくれる。そこに住んでいる会員の一人は「3 か月のつもりでここに住んでもう 2 年になります。あまりに楽しくて」と言っていました。そして何より悔しいのは家を出て 2 週間が限度、彼らに話すと、「なんで？」と聞く、「せっかく多額の料金を払って遠い国に来ているのにもっと他にも行ったりしないの？」。何はともあれとにかく楽しませていただいた。我々との交換の違いも判り今後の参考にさせてもらいたいと日本での彼らの来訪を楽しみにアメリカを後にした。

再会のデトロイト。停電のカラマズー。　　橋本　忠幸

我々がデトロイトに到着しても貴方たちはちっとも顔を見せません。約１時間遅れてやっと迎えに来てくれました。私達を乗せて、飛行機を出る時、「また同じところへ来てしまった」とすぐ出られず、同じところを回っていました。４年前我が家に来た時とちっとも変っていません。相変わらず明るく楽しくドジ。憎めない。「貴方はコメディアンか」と言われるほど、デニスは我々を明るく歓待。２度目でお互いに気心が知れ、リラックス出来、楽しい再会。旧交を温めることが出来た。

６月５日のフェアウエルパーティーでは私の７１歳の誕生祝いまでしてもらい、良き思い出となった。カラマズーの初めは驚きの連続。着いたらホストでないデニスが「貴方はゴルフをするのか。明日私とやろう！」「えっつ、ホストのフレッドは知っているの？」「イエス」。いきなり翌日ゴルフをすることになった。

パーティーが終わってフレッド、メアリーと家に着いたら電線が切れ、家の中は真っ暗。エアコンもトイレも電灯も全部だめ。メアリーのお母さんの家に泊めてもらうことになりました。週２回ゴルフをする元気な 85 歳のおばあさん。大きなおとなしい犬との一人住まい。ところが、夜中にトイレで起きてバスルームに行くと、便器の横で寝ている。吠え出したらどうしよう。そっと背中を撫でて起こし、退いてもらった。おとなしくて良かった。

私のへたな英語力に合わせて、ゆっくり解りやすくはなしてくれ、日本の文化や食事、料理、宗教、アメリカの大統領選など多くの質問に応えた。
私でも少しは会話が出来るのだ。うれしかった。　　**シカゴへ向け、ここでサヨナラ！**

デトロイト、カラマズーFF 愛知旅行感想文　　山口　育子

主人の杖として参加したのに、私の方が思いがけず、救急車で病院へ運ばれる事になり、デトロイト FF の方々、愛知 FF の皆様にご心配おかけして申し訳ございませんでした。病院で一人、少し不安でしたが、ベッドの上で日本とアメリカの病院のドクター、ナースの行動を見比べたり、コールセンターとの電話でドクターとの話も出来て驚きの体験でした。

ホストはとても仲の良いご夫妻でいつも楽しそうに話して笑っていました。そんなホストに最後の最後まで心配をかけて、大変申し訳なく思いました。

車に弱い私は、毎日「今日は大丈夫？」かなと心配でしたが、カラマズーに行ってからホストから酔い止めのリストバンドを頂いてから元気に過ごすことが出来ました。

ヨット、ボート、馬車に乗ったりと、めずらしいアウトドアーの体験をし、楽しかったです。ホストが行動的な方で友達も多く、毎日友人の家や娘さんの家庭にも招待して下さったり、めずらしい国際的なミーティングにも参加して、ロシア、ガボン、スペインの方々とも会って話をし、皆さん前向きですばらしいなと思いました。　いつも私の事を気づかって声をかけていただき無事に帰って来る事が出来ました。皆様ありがとうございました。

初めての FF 渡航、初めてのアメリカ本土　　新海　ゆみこ

Detroit の Frank　&　Bea 宅が、私の初 FF 渡航での初 Home stay 先でした。そこは裏庭に時折子鹿が訪れるような、自然いっぱいの Detroit 郊外にありました。

犯罪率が高いと心配していた Detroit のイメージとは大違いで、大きい木々が風に揺れ、緑の中の広大な敷地には瀟洒な家が建つ様は、幼い頃憧れたアメリカそのものでした。

ホストは知的で社交的なご夫妻で、FF メンバーも仲が良いらしく、毎日違うお宅でのディナーパーティでした。会話とお酒を楽しんでのパーティ、これまたアメリカドラマの世界。他のお宅の暮らしや、室内の飾りつけ等々、色々見ることができて、ラッキーでした。

次の Western Michigan は 80 歳の Peg ＆Frank 宅でお世話になりました。ドイツ移民の一世夫婦で、８人の子供と 14 人の孫たちと結束が温かいファミリーでした。

元気で可愛い Grandma Peg はとってもアクティヴ、色々な所に連れて行ってくれました。息子さんの営むマーケットや娘さんの自宅、三男さんが営むレストランなどへわざわざ行き、仕事中のご家族たちに紹介してくれ、みんなも私を Yummy と呼んで家族の様に接してくれました。Native American の Powwow もいい体験でしたが、ある日、夕食後ミンガン湖まで夕陽を見せに連て行ってくれました。日没は９：30 です。連日のアクティヴィティにも全て一緒に行動してくれるし、お酒も飲んでみえたので、お疲れのはずなのに夕陽の後、Music Fountai n まで見せてくれて、「帰りは眠っている内に家に着くからお眠り」と優しい言葉、勿論眠れる訳ありません。できる事なら運転を代わってあげたかったです。　最後の日は教会のミサに参加し､卵の朝食を食べる Typical Sunday を味あわせてくれました。そして、夕刻には娘さん一家が二家族集まって、自慢のプールサイドでのお酒とお喋りがご馳走の､デリバリーの中華ディナーで私のお別れパーティ｡これも Typical Sunday なのだそうです。　アメリカに家族ができた様な、幸せを味あわせていただきました。本当に FF でなければ経験できない旅でした。

初めてのホームステイ　川合　明美

空港にホストファミリーが迎えに来てくれた。凄く歓迎され、家に入り驚く、豪邸。食べ物の大きさ、見る物すべて日本と違う。アメリカの広さを実感した。

デトロイトの思い出は、Henry Ford Museum と Greenfield Village,童心に返り、キョロキョロと動き回り観覧車にも乗った。FreeDay には DETROIT200 に行き、色々な動物を見て、ペンギンのおもちゃをお土産に買った。

次に行ったカラマズーのホストファミリーの家は周りが木に囲まれ、小動物や鳥が庭先に来てとても静かな大きなお屋敷だった。ここでの思い出は Grand　River でのカヤック乗りの体験。半分（約１時間強）漕ぎ続け手に豆が出来てギブアップした。自分の体力のなさをつくづく思い知った。このホームステイを体験し、人々の親切さや、思いやりをつくづく感じた。

また、私の英会話が相手に通じない事も思い知った。言葉が理解出来なくても心が通じ合えたことが嬉しかった。とても良い経験をした事に感謝します。

初めてのデトロイト、カラマズーでのホームステイ　竹内　珠美

アメリカ本土が初めてでもありました。私は訳あって３軒のお宅を拝見することができましたが、ホストの皆様の根底にあるのは FF 精神「友情で結ばれた世界は平和の世界」だと思いました。

４月に NZ の方の受け入れをした時に、私にその精神があったのかーと考えると恥ずかしく思います。

デトロイトのフォードミュージアムでのアメリカの歴史は、とても興味深く、アウトレットの大きさにも圧倒！カラマズーでのカヤックやバギー体験はアメリカの大自然に包み込まれるような体験でした。　そして、２週間、庭にリスの居るくらし、あたたかいホストの方々のもてなし。日本の喧騒とかけ離れた時間を持つことができた事をうれしく思います。私の語学力でも楽しく旅ができたのは、ひとえにペアになった方々のご協力だと、本当に感謝しています。

ミシガン州を旅して！　須田　久子

13 時間の長期フライトを経て、デトロイトに到着。私のホストは Linada 彼女は定年まで G.M に勤務していたキャリアウーマン。合理的な思考を持ち、乗馬とパッチワークをこよなく愛し、祖先のルーツを辿り、家系図の本を発行と幅広い趣味を持った人です。あまり料理をしない彼女が、カラマズーへ向かうバスの中での昼食を作ってくれました。手の込んだフレンチトースト。その美味しさが忘れられません。カラマズーのホストは Shirley.ホームレスのカウンセラーを長年していて、

今もボランティアを続けています。易しい英語でゆっくり話してくれて、毎日 100 キロ以上の道のりを運転して、色々な場所に案内してくれました。２人のホストは熱心なクリスチャン、初めての guest 受け入れ、supporting children,同年齢、等の数多くの類似点があり、私は不思議さを感じました。２つの F.F との交流を通じ、お互いの文化、考え方を共有し合う事の大切を学びました。

春の息吹に、もてなしの心と、知られざる新潟の魅力満載（国内交流 5/8~5/10　１３名）

新潟クラブ国内交流　　ED 加藤紀子

思えば２年前の日本大会の折り、土居前会長が日本大会で新潟クラブの吉森さんとお酒を酌み交わしたことが国内交流のきっかけとなった。次の年には新潟クラブの伊藤会長にお目にかかることができ、この席で直談判。悪くも良くも押しの一手でお引き受けを頂いた。
結果は大成功。さすが伝統ある先輩クラブ。おもてなしの心をたっぷり持って、我々を心から歓迎してくださった。交換が決まった時点であれこれと考える事多く、お土産からして悩みぬいた。食品や工芸品、何でも新潟の方がうえ。日本人同士なので「私は言葉が通じません」と逃げるわけにもいかず一生懸命考えて感謝の気持ちを伝えた。それでもたぶん気に入ってはいただけなかっただろうとは思うのだが嫌な顔をせずに、毎日朝から晩まで本当に心のこもった熱い「おもてなし」を受けた。交流に参加した FF 愛知の会員は、笑顔で楽しい時間を過ごし、おもてなしの仕方も勉強になり、本当にお土産もいっぱい、温かい心のお土産もいっぱいで帰途に着いた。新潟クラブの皆様本当にお世話になりました。来年は愛知でお迎えできることを心待ちにしております。

新潟　温かな人たちとの出会い　　熊谷　洋子

週明けの５月８日から２泊３日新潟クラブの国内交流会の参加は、私にとって初めての新潟の旅でもあった。にこやかで温かな人たちと出会い、清水園、北方文化博物館の広大な回遊式庭園を眺めていると、その美しさに心が落ち着いた。バスの中も城下町新発田４００年の歴史や新潟市内など行く先々、懇切丁寧な案内役をして下さり心が和んだ。
１日目、長年の風雪に耐え住時の面影をそのままに暮らしを伝承している豪農の館（伊藤家）今を伝えて残していくことは、私も家族に流されず大切なことを残していきたいと感じた。
　パーティーも歌や踊り（花笠音頭はよかった）など、そのおもてなしは一体感があり楽しいひとときでした。２日目奥只見ダムを見学する前、立ち寄った店員さんの優しい触れ合いも心に残る出来事でした。そして西福寺開山堂、石川雲蝶の彫刻の妙技に息をのむ。
３日目は雨も何とか持ちこたえ、トキメッセ、信濃クルーズ、しろがね大凧、越後風情を満喫。私は新潟 FF クラブの人たちとより親しくなり良かったです。

報告とお知らせ

メキシコ Coatepec クラブ受入交換 9 月 27 日～10 月 4 日　　ED　西村貴美子

メキシコから 16 名のアンバサダーを迎えます。ホストの皆様ご苦労様です。
今回は 8 日といつもより 1 日滞在が長いので、ディナーホストを申し出ていただけると助かります。ホスト、担当者だけでなくクラブ全員でお迎えしたいと思います。
ご協力よろしくお願いします。
ホスト：西村　森井　重森　加藤紀子　稲葉　服部　橋本　土居　鷹野　細川　岡田

クラブ内イベント「多治見陶都めぐり」 7月14日：参加者15名　　有賀清美

多治見探索。まず、加藤幸兵衛窯へ。ペルシャのラスター彩を再現した加藤卓男氏の陶器はきらきらと光り、けしの花の優美さを見事に現していた。氏を尊敬している私は、彼のペルシャを旅した絵やエッセイも好きで、本を熟読している。その後、さかずき美術館をおとずれた後、昼食は「天光の湯食事処」で和食を楽しみました。午後は笠原モザイクミュージアムにて多種類の美しいタイル作品を見学。タイルの優雅さを再発見した。しっとりとした色を持ち、柔らかな光沢を放っていた。最後に多治見修道院へ。教会内の壁の工芸品には歴史の重みを感じた。庭のブドウ畑と広々と続く芝生は西欧のようだ。その後、人気の店「燈」でのコーヒーで一服。仲間と楽しく過ごした至福の一日となった。

≪2016 年・2017 年 FF 愛知の交換プログラム≫

① 2017 年 Montana, USA 受入：日程 3 月 25 日～31 日の予定 ED　稲葉千賀子さん
② 2017 年 Western Michigan, USA 受入：　ED 加藤紀子さんに決まる
③ 2017 年 Victoria, Canada：9 月予定 渡航 ED 武藤美代子さんに決まる
④ 2016 年 8 月ニュージーランド英語研修 2 週間：Whangarei club & Gisborne club
　参加者：久世三央子・久世晃生・高須多江子・成田美和子
⑤ 2016 年 10 月ニュージーランド英語研修 2 週間：Wanganui　club & Taupo club
　参加者：加藤紀子・加藤孝子・蟹江直子・川合明美

編集・発行：FF 愛知　会　長：鷹野　晴子 **htkn@ma.medias.ne.jp**
〒470-2101 知多郡東浦町森岡祖母懐 15-37
事務局：加藤　紀子　**puppy-nk@cac-net.ne.jp**
〒475-0833 半田市花園町 6-27-19
ニューズレター 編集・製作グループ：冨岡達也　重森整三　森井恵治　山脇悦子
ホームページ　担当　　：冨岡　達也　　アドレス：http://ff-aichi.jp